

学校図書館支援センター通信 NO.42 3月号

平成22年度 市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）



事業委員会・協力校合同会議開催！

～文部科学省委託「学校図書館の有効な活用方法に関する調査研究」～

2月22日（火）、文部科学省委託「学校図書館の有効な活用方法に関する調査研究」の第2回事業委員会・協力校合同会議が開催されました。事務局からの事業報告の後、各協力校（中山小・宮田小・鶴指小・大洲小・塩焼小、第七中）より、2年間（平成21・22年度）の研究内容や成果と課題について報告がありました。

どの学校においても、学習のねらいと子どもの実態に応じた特色ある研究が推進され、図書館活用を通して、子どもの学びの充実が図られたこと等、様々な成果が得られました。



協力校からの研究報告

【協力校の主な研究成果】

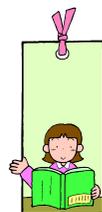
- 図書館を活用した言語活動や調べ学習の充実を図ったことにより、子どもたちに調べ学習のスキル（課題設定の方法や情報を整理する仕方等）が身に付くとともに、自ら学ぼうとする意欲や態度が育ってきた。
- 国語科をはじめ、社会科、理科、生活科、総合的な学習の時間等において、学校図書館が積極的に活用された。また、教科の特性や単元のねらいに応じて図書館活用を指導過程に明確に位置づける等、計画的な活用が推進された。
- 学校全体で研究を進めたことで、図書館を活用した調べ学習の進め方等について教職員が共通理解することができ、教職員の学校図書館活用への意識が高まった。
- 図書資料の収集、ティームティーチング、図書資料の使い方指導など、授業者と学校図書館員が連携し効果的な支援がなされ、子どもたちが適切な資料を有効に活用して意欲的に学ぶことができた。

報告後は、事業委員会委員長：大熊徹先生（東京学芸大学教授）、同委員：杉山由美子校長（校長会代表）より、全体講評をいただきました。「国語科だけでなく、多様な教科・領域で図書館活用が進んでいる。」「子どもの学ぶ姿に、研究成果が着実に表れている。」「先生方の意識が確実に高まってきている」等、協力校の研究に対して高い評価をいただきました。また、「『市川市教育振興基本計画』にあるとおり、今後も学校全体で組織的、継続的に学校図書館活用を推進する必要がある。」など、今後の方向性についてもご指導をいただきました。

※ 学校図書館が、子どもたちの確かな学力の育成に資するためには、何よりも、授業において学校図書館を効果的に活用していくことが求められます。それは、まさに、学校図書館に魂を吹き込む営みです。今後も市全体でその方策を研究、実践し、市川市の共有財産としていきたいと思っております。

本事業における調査研究の経過と成果については、協力校の実践を中心に、『研究紀要』並びに『学校図書館活用授業実践事例集3』にまとめ、来年度4月に、幼稚園、小・中学校、特別支援学校に配付する予定です。

路子の部屋 「調べる学習 達人への道（最終回）」 ～ 調べたことをどうまとめるか ～



まとめるスキルは様々な手法があります。教科書にも事例が載っていますが、どのまとめ方もスキルを身に付ける必要があります。

書く：レポート・個人新聞・班新聞・漫画などのプレゼンテーションなど
話す：パネルディスカッション・発表会など

自分の言葉でまとめる

- 「情報カード」で調べた内容を確認し、2～3の項目に分類する。
必要な情報と、不要な情報に区別する。書いた情報すべてが必要ではない。
- 「引用」や「要約」をしながら自分の意見をまとめる。
他人の意見を自分の考えと区別して紹介する。図書などからの「引用」（他人の言葉）と自分の考えを区別する。辞書を常に活用できる環境づくりや著作権について配慮する。

まとめ方の手法を指導する

- プレゼンテーション：用紙を利用して、紙芝居のように作らせる。
- レポート：字数は300字程度で簡単にまとめさせる。短い文章でも、序論・本論・結論を書かせる。
（※ プレゼンテーション、レポートについては、塩谷京子氏の手法が有効である。書く力の育成やグループ内で伝え合う活動には、最適のやり方である。）
- 個人新聞：新聞の割付見本を提示し、記事の数（3～5）を指定する。情報カードを内容ごとにまとめて、記事を書く。わかったことを一つの記事にまとめる。

発表会は、図書館活用スキルとは別のものである

発表会や報告会、討論会などが教科書には載せられています。このプレゼンテーションスキルは調べるスキルとは全く別のもので指導する必要があります。学校図書館を使った調べる学習を考える時に、いつも発表会を想定すると時間がかかりすぎてしまいます。短時間で活用するには、「テーマ」を決め、「利用図書リスト」や「情報カード」を活用し、「グループ交流」で簡単な意見交流をすることを繰り返しながら、スキルアップをしていきましょう。

※ 塩谷京子氏の手法『学校図書館で育む情報リテラシー』p87参照（全国学校図書館協議会）
序論（はじめ）…なぜ、そのテーマで調べようと思ったか。
本論（中）…「情報カード」を利用して調べた内容をまとめる。
結論（おわり）…調べて「わかったこと」を自分の言葉で書く。
数枚のA6サイズ程度の紙を利用して、文章構成を考えて短くまとめていく。



学校図書館の応援団！

～学校図書館支援スタッフがお手伝いしました～

今年度も学校図書館支援スタッフが、学校図書館に伺い、各図書館のニーズに応じた支援を行いました。訪問回数は43回に上ります。今年度も学校図書館の心強い応援団でした。



「学校図書館調査」の提出をお願いします！

- 「学校図書館活用実態調査」
- 「学校図書館チェックリスト」
- 「読書コミュニティに関する調査」
- 「学校図書館年間利用計画（実施分）」
- ※ 図書館経営の自己評価となるものです。よろしくをお願いします。

『学校図書館支援センター通信』は、市川市教育センターホームページでもご覧いただけます。

市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）
〒272-0015 千葉県市川市鬼高1-1-4 TEL 047-320-3335 FAX 047-320-3352
<http://www.ichikawa-school.ed.jp/index.html>（※「市川市教育センター」で検索できます。）

